

令和5年度 作業学習 学 習 指 導 案

日 時 令和5年11月17日(金) 2～3校時
9時50分～11時40分

場 所 食品デザイン科実習室

生 徒 学科 食品デザイン科

学年 2学年 6名

指 導 者 教諭 小 川 マ キ (MT)

教諭 構 口 美 保 (ST1)

指導実習助手 山 本 寿 之 (ST2)

1 単元名(題材名) 「11月ハコカフェクローバー ランチデザイン」

2 単元(題材)設定の理由

(1) 生徒観

本学級の生徒は男子3名女子3名で構成され、知的障害のほかに自閉スペクトラム症を併せ持つ生徒が数名いる。お互いの距離感がつかめずトラブルになることが散見されるが、全員明るく素直であり、ホームルーム内でどの生徒ともうまくコミュニケーションを図ることができる、行動力のある生徒もいる。

作業学習の調理はとても興味関心が高く意欲的に取り組む生徒が多い。入学時から挨拶や時間厳守や身だしなみ、衛生面、体調管理を継続して指導しているが、いまだに課題の残る生徒もいる。調理の基本的な操作性に能力差はあるが、不得手な作業にも挑戦させたり経験を増やしたりして取り組んでいる。日常的に家庭で手伝いをしている生徒は、段取りを考えて柔軟に対応ができるため、調理経験の少ない生徒のよき見本となっている。また、食通の生徒は味見における表現力での味の表現が豊かで話し合いのきっかけになることがあり、それぞれの生徒が互いの不得手な部分を補いあって、自分の強みを生かすことができる場面も増えてきた。

一般就労やA型作業所を希望する生徒が半数以上いるため、社会で必要とされる力として「長時間働く体力」「仲間や上司とのコミュニケーションの力」「作業中に仕事を見つける力」を重点に作業学習を行ってきた。

作業学習ではパン作りの工程の理解、完成した製品の販売、味や見た目などの振り返りと次の販売に向けての改善というサイクル「ランチデザイン」としている。

今回で3回目の取り組みとなり、作業学習の流れを概ね理解できていることから、お客様から頂いたアンケートを基に改良する点や次回につなげる工夫点を、自分たちで気付けることを期待している。

(2) 単元(題材)観

ア「何を学ぶか」

・学年が上がったことで、ハコカフェクローバーのランチ提供も年間で計画しており、ランチデザインも繰り返し取り組んできた。お客様のアンケート結果や作業工程の振り返りにより、自ら気付いたり工夫したりする作業と、お互いの考えや情報を共有してより完成度の高い製品作りを目指しながら達成感を得られる授業に取り組んでいる。

イ「どのように学ぶか」「主体的…学び」の実現に向けた授業改善の工夫について

(ア)「わかる」の視点による授業改善

- ・単元のスケジュールが分かり見通しをもつことが重要である。(メニューを考える、パン販売、練習計画、評価と振り返り、次回の見通しとヒント等)
- ・個人の作業分担は概ね固定して繰り返し作業をすることで、自分の作業スピードや作業量が分かり自信をもてるようにする。

(イ)「できる」の視点による授業改善

- ・作業内容によって個別または複数で協働作業を行うこともあるが、一人一人が存分に活動できるように作業量と互いの作業が確認できる配置、実態にあった調理道具の工夫をする。
- ・複数で協働作業を取り組む場合は、進捗状況を確認して、励ましたり手伝ったりできる雰囲気づくりをする。

(ウ)「いきる」の視点による授業改善

- ・作業パターンを繰り返すことで、経験を互いに教え合えるようになり、自信を付けて次も頑張ろうとする意欲につなげられるようにする。
- ・繰り返しの作業で実現性の高い作業学習となることで、ハコカフェと、生産技術科との2科協働カフェ・単独カフェとの比較を行い、具体的な違いを理解して、より良い緊張感、責任感をもてるようにしたい。

{3} 評価観

「何が身についたか」

- ・生徒自身で考え、安全や衛生面に注意し、道具や食材の準備を行い作業開始ができること。
また、個別に作業準備の確認を行う場合は忘れずに報告ができること。
- ・個々の作業途中で間違いや指示通りに進められない時に、教師や仲間に相談をして解決や改善できること。
- ・お客様のアンケート結果を受けて、具体的な改善策や工夫点を表現することができ、全員で情報を共有できること。

3 単元(題材)の目標

3つの柱	校訓	学習指導要領の内容との対応	学習目標	評価規準 (評価方法)
知識及び技能	探究 協働	専農(1)ア① 専農(5)アエ① 専農(4)アイ①	①食品の種類や調理に必要な道具準備、完成までの工程について自分の役割を理解して作業することができる。 ②製品を作るための改良点が分かり、確認しながら調理に取り組むことができる	・完成までの工程について理解して作業している。 ・製品を作るための改良点が分かり調理をしている。 (作業観察、自己評価)
思考力、判断力、表現力等	探究 協働 健全	専農(5)アエ② 専農(4)アイ②	①調理に関する身支度や準備、効率的に作業ができるように状況を判断して自ら活動することができる。 ②時間内に生産品ができるよう教師や仲間に相談をしたり、協力を求めたりできる。	・調理に関する基礎基本の作業に取り組んでいる。 ・適切に相談や協力を依頼している。 (自己評価、作業観察)
学びに向かう力、人間性等	探究 協働 健全	専農(5)ウ③ 専農(4)イ③	①時間や期日までに規格通りに製造することを意識して、主体的にパン製造に取り組むことができる。 ②よりよい生産品を作るために時間や状況を把握して取り組むことができる。	・販売に関する決まりや規格を知り協力して取り組んでいる。 ・よりよい生産品を作るために時間や状況を把握して取り組んでいる。 (作業観察、自己評価)

4 指導計画（全 27 時間扱い）

月 日	時数	学 習 予 定 【わかる】【できる】【いきる】の視点	備 考
11/1(水)	4	・ 11 月ハコカフェクローバーのランチの生産スケジュールや作業分担を知る【わかる】 ・ 役割分担を知り調理を行う【できる】 ・ 作業に必要な情報を教師に質問する【できる】 ・ メニューの方向性を話し合う【いきる】	
11/7(火)	3	・ 本時の流れや分担が分かる【わかる】 ・ 本時の調理分担を理解し安全に取り組む【できる】 ・ メニューの改善点を話し合い決定する【いきる】	
11/8(水)	6	・ 本時の流れや分担が分かる【わかる】 ・ 本時の調理分担を理解し安全に取り組む【できる】 ・ メニューの改善点を話し合い決定する【いきる】	
11/14(火)	3	・ ハコカフェクローバーの仕込みの手順や道具などを知る【わかる】 ・ 仕込みの順番を知り丁寧で正確な調理をする【できる】 ・ ハコカフェクローバーの流れや必要な物品についての話し合い【いきる】	
11/15(水)	6	・ 自分の役割が分かり必要な活動や流れを知る【わかる】 ・ 自分の役割を責任をもって果たす【できる】 ・ 効率よく作業が進むことを考えて必要な行動をとる【いきる】	ハコカフェクローバー
11/17(金)	3	・ 作業の目的や流れを知る【わかる】 ・ 自分の役割が分かり正確に作業をする【できる】 ・ 時間内に販売準備を終えるよう言葉を掛けあい協力する【いきる】	本時（25/28）
11/21(火)	3	・ 個々に評価や反省した内容を共有する【わかる】 ・ 今回のランチ提供の改善点を次回の運営に反映するための話し合いをする【いきる】	

5 本単元（題材）における生徒の実態及び個別目標

※知・技：知識・技能、 思・判・表：思考・判断・表現、 主体的：主体的に学習に取り組む態度

生徒	単元（題材）に関する実態	単元（題材）の個別目標	
A	・ 明るく前向きな気持ちがある。 ・ 作業指示を聞いたり実演を見たりしても手順や操作を理解できないことがある。また、プレッシャーを感じやすく 体調や情緒の安定への配慮が必要。 ・ 進路は接客を希望しているが実態から難しさもある。 ・ 作業後半は疲れが出やすい。	知技	・ 自分の役割を知り、初歩的な調理を安全に取り組むことができる。
		思判表	・ 自分の作業状況を知り時間を気にしながら作業することができる。
		学人	・ 自分から仕事を見つけ進んで取り組むことができる。
B	・ 必要なことはメモを取り次回の作業に備えることができる。 ・ 失敗を回避するため徹底した練習や作業確認を行う。 ・ 初めての作業はより慎重になるため作業に時間がかかる。 ・ 周囲の状況を判断したり、率先して作業したりできる。 ・ 進路は一般就労で清掃や製造を希望しているが実態から難しさもある。	知技	・ 自分の役割を知り自信をもち正確に取り組むことができる。
		思判表	・ 作業全体の状況を把握し適当な支援や協力を行うことができる。
		学人	・ 気付いた仕事を率先して行ったり仲間と情報を共有したりして取り組むことができる。
C	・ 広く浅く知識はあるが、こだわりすぎるため時間がかかったり間違ったりすることがある。	知技	・ 自分の役割を知り自信をもち正確に取り組むことができる。
		思判表	・ 自分の作業状況を知り時間を気にしながら作業することができる。

	・自分からコミュニケーションをとることは少ない。 ・衛生面や忘れ物に課題があり継続した指導が必要。 ・進路は接客を希望しているが、実態から難しさがある。	学人	・業することができる。 ・どの仕事をしていいか不明なときは自ら仲間に相談することができる。
D	・作業内容や情緒が安定しない時には集中時間が変わり 30 分程度しか続かないこともある。 ・周囲の状況を判断し、率先して作業に取り組むことができる。 ・進路は希望する業種がよく変わり絞り込めない。実態と就労意欲が合致しない。	知技	・自分の役割が分かり落ち着いてできるだけ集中して取り組むことができる。
		思判表	・場面や状況に応じた発言をすることができる。
		学人	・自分から仕事を見つけ進んで取り組むことができる。
E	・衛生面や忘れ物に課題があり継続した指導が必要。 ・調理経験があり手際は良い。慣れてくると、基礎基本を逸脱することができる。 ・言葉遣いが気を付けなければならないことが多い。 ・進路は自己理解ができず希望する職業がよく変わる。	知技	・自分の役割を知り自信をもち正確に取り組むことができる。
		思判表	・作業全体の状況を把握し適当な支援や協力を行うことができる。
		学人	・主体的に改良点などを丁寧な言葉遣いで発言することができる。
F	・社会生活全般に経験が乏しい。 ・苦手な作業や急な作業依頼を回避する傾向がある。 ・器用さはなく作業の確認が多いが諦めず一生懸命取り組む。 ・進路は A 型を希望している。	知技	・自分の役割を知り、初歩的な調理を安全に取り組むことができる。
		思判表	・自分の作業状況を知り時間を気にしながら作業することができる。
		学人	・自分から仕事を見つけ進んで取り組むことができる。

6 本時の指導

(1) 全体目標

3つの柱	学習目標	評価規準 (評価方法)
知識及び技能	・製品を作るための改良点が分かり、確認しながら取り組むことができる。	・製品を作るための改良点が分かり調理をしている。(作業観察、自己評価)
思考力、判断力、表現力等	・作業状況を判断しながら、教師や仲間に相談をしたり協力を求めたりして調理をすることができる。	・適切に相談や協力を依頼している。(作業観察、自己評価)
学びに向かう力、人間性等	・よりよい生産品を作るために時間や状況を把握して取り組むことができる。	・よりよい生産品を作るために時間や状況を把握して取り組んでいる(作業観察、自己評価)

(2) 個別目標

※知・技：知識・技能、 思・判・表：思考・判断・表現、 主体的：主体的に学習に取り組む態度

生徒	本 時 の 個 別 目 標		個 別 の 手 立 て
A	知技	・製品の改良点を知り、初歩的な調理を安全に取り組むことができる。	・作業内容と手順の確認をする。必要なら工程表など確認できる教材を使用する。 ・時間内に終わらせる作業量を用意する。 ・自分の作業終了した場合は片付けをすることを事前に伝えておく。
	思判表	・自分の作業状況を知り時間を確認しながら作業することができる。	
	学人	・自分から仕事を見つけ進んで取り組むことができる。	
B	知技	・製品の改良点を知り、正確に取り組むことができる。	・前回の作業を復習するよう言葉がけをする。 ・周囲の状況で気が付いたことがあれば教師に確認または協力できる旨を伝えるよう促す。
	思判表	・周囲の作業状況を判断しながら、適当な支援や協力を行うことができる。	
	学人	・気付いた仕事を率先して行ったり仲間と情報を共有したりして取り組むことができる。	
C	知技	・製品の改良点を知り、正確に取り組むことができる。	・前回の作業を復習するよう言葉掛けをする。 ・作業終了時間を確認する。 ・些細なことでも自己判断せずに教師に相談するよう伝える。
	思判表	・周囲の作業状況を判断しながら、時間を確認しながら作業することができる。	
	学人	・どの仕事をしていいか不安なときは自ら教師に相談することができる。	

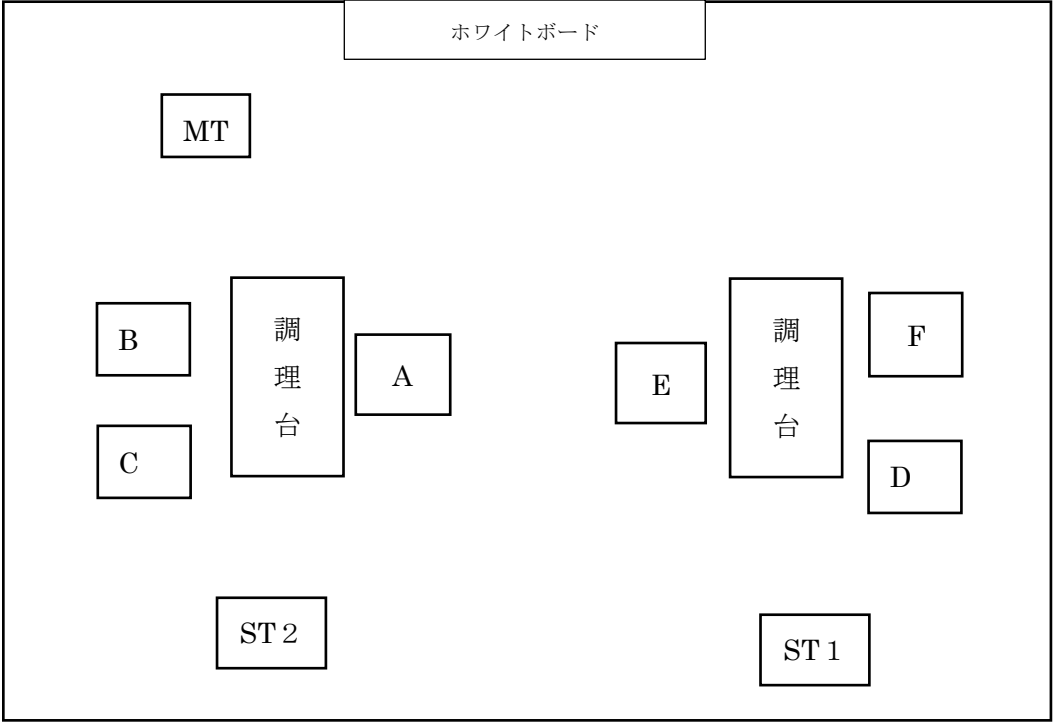
D	知技	・製品の改良点を知り落ち着いて取り組むことができる。	・当日の心、体調の健康状態を確認する。本人が集中できる範囲を勘案して作業内容を提示する。 ・周囲の状況で気が付いたことがあれば教師に報告し、指示通りに動くように約束する。
	思判表	・自分の作業状況を判断しながら、場面や状況に応じた発言をすることができる	
	学人	・自分から仕事を見付け進んで取り組むことができる。	
E	知技	・製品の改良点を知り、自信をもち正確に取り組むことができる。	・前回の作業を復習し正す内容を反復してから作業を行う指示を出す。 ・周囲の状況で気が付いたことがあれば教師に確認または協力できる旨を伝えるよう促す。 ・職場であることを意識させ、正しい言葉遣いができない時には訂正を促す。
	思判表	・自分の作業状況を判断しながら、適当な支援や協力を行うことができる。	
	学人	・改良点などを丁寧な言葉遣いで発言することができる。	
F	知技	・製品の改良点を知り、初歩的な調理を安全に取り組むことができる。	・作業内容と手順の確認をする。必要なら工程表など確認できる教材を使用する。 ・時間内に終わられる作業量を用意する。 ・自分の作業が終了した場合は、率先して片付けをすることを事前に伝えておく。
	思判表	・自分の作業状況を知り時間を気にしながら作業することができる。	
	学人	・自分から仕事を見付け進んで取り組むことができる。	

(3) 本時の展開

段階	学習内容	生徒の活動 ●：活動内容 ※：予想される生徒の言動 【わかる】【できる】【いきる】の視点	教師の働きかけ ○：全体援助、△：個別の援助、■：評価の観点		援助・配慮事項、教材等 特記事項(関連チェック)
			MT	ST	
導入 (10) 分	0 衛生点検 (3分)	●手洗い・消毒、身だしなみ、爪チェックを教員と行う。【できる】 ●入室の挨拶をして入室する。本時の教員全員へ挨拶をする。【できる】 ●乾燥機内の食器や布巾などを片付ける。【できる】【いきる】	○体調や気持ちの安定を確認する。 ■率先して調理道具の片付けを行っているか。	○作業確認シートの確認を行う。 ○体調や気持ちの安定を確認する。	・作業確認シート ・消毒
	1 号令 本時の説明 (7分) 2 校時開始	●作業開始の会を日直が進める【できる】 ①声出し、日常の五心 ②作業内容や作業担当、タイムテーブルの確認 ③本時の目標の確認 ④担当教師から注意点 【本時の目標】 ・製品を作るための改良点が分かり、確認しながら取り組むことができる。 ・教師や仲間に相談をしたり、協力を求めたりして調理をすることができる。 ・よりよい生製品を作るために時間や状況を把握して取り組むことができる。	○目標を日直に確認をする。 ○△本時（公開研）の流れについてポイントを伝える。 ○水分補給は適宜摂取するよう伝える。	○注意点を伝える △本時（公開研）の流れについてポイントを伝える。	・タイムテーブル表 ・作業開始用

展開 (100) 分	2 前時の振り返り (20 分)	●ハコカフェの学習内容を振り返る。 【わかる】 ●ハコカフェの感想や成果を発表する。 【いきる】 ※自分の役割とランチを行った感想や手ごたえ, 工夫点を発表する。 ●評価や改善点を共有し本日の校内販売に向けた作業を行う。 【できる】	○△感想や成果の発表の仕方を見せ、全員の発言を板書する。 ■自分の考えや意見を発言したり改善点を確認したりすることができたか。 ○△共有した方がよい情報をまとめるように言葉がけをする。	△共有した方がよい情報をまとめるように言葉掛けをする。	・ハコカフェアンケート一覧 ・メモ用付箋 ・筆記用具 ・
	3 調理 (80 分) 3校時開始	●自分の担当する作業に取り組む。 【わかる】【できる】 ①具材作り ②具材をはさめる ③袋詰め ●調理と同時並行して片付け（洗い物、乾燥）を行う。【できる】【いきる】	○安全、衛生に取り組むよう言葉掛けをする。 ■分からない点を自ら相談や質問をすることができたか。 ■状況を判断して作業することができたか。 ■よりよい生産品を作ろうと工夫することができたか。 △質問の内容によってはヒントを与えて答えられるようにする。	△安全、衛生に気を付けて取り組むよう言葉掛けをする。 △質問の内容によってはヒントを与えて答えられるようにする。	・調理道具 ・食材 ・ゴム手袋 ・パン袋 ・買い物袋 ・バックシーラー ・番重（パン販売用） ・販売案内、金額のラミネート各種

(4) 配置図 (配置は変更あり)



(5) 本時の評価

知識及び技能	・ 製品を作るための改良点が分かり、確認しながら取り組むことができたか。
思考力、判断力、表現力等	・ 教師や仲間に相談をしたり、協力を求めたり調理をすることができたか。
主体的に学習に取り組む態度	・ よりよい生産品を作るために時間や状況を把握して取り組むことができたか。

公開研究会 分科会記録

分科会

公開授業	授業者	助言者
食品デザイン科2年 「作業学習」	教諭 小 川 マ キ	渡島教育局教育支援課義務教育指導班指導主事 早 坂 洋次郎 氏

司会(今村) 記録(構口)

研究協議記録

1 授業者から

○学習指導案の概要

- ・先週 11 月 15 日(水)に2学年ハコカフェクローバーでランチを提供した。11 月頭から生徒とカフェで何を提供するのか話し合いながらメニューを決めた。今日の学習では、前回のカフェでのお客様アンケートを基に改善点の発表を行った。出てきた反省を今回の授業に生かして行くこの単元は来週の火曜日で終了し、その後は12月のカフェメニューを決める。
- ・生徒6名は全員調理に興味があるが、家庭での経験の差もあり、操作性に違いがある。作業では得意な事ばかりでなく、全員が一通りの作業を行うことができるようにする。

○本日の授業の振り返り

- ・わかる 今回で3回目の作業となるが、スープを作る作業がなかったので、2人はブルドポークと卵グループに入った。サンドイッチを袋に入れる作業は今回が初めてだった。全体や個別に指示することで理解して、作業を進めることができた。
- ・できる 各グループが3～4の作業工程を行った。新しくグループに入った生徒に教えることができていた。また、分からないことは、同じグループのメンバーや教師に聞き、理解して作業を進めることができた。
- ・いきる 前回までと比較して、自分はどうかだったか？自己評価を記入し、課題に気づき、次回に生かそうとすることができていた。

2 研究協議

「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の在り方について」

- ・付箋に反省点を記入するなど、活発な活動になっていた。
- ・黙々と作業を行っていた。自分の役割だけでなく、他の生徒の役割も理解していた。
- ・他の学年も、同じような作業をするのか？
→1年生は基礎・基本を行う。3年生になると、作業工程や扱う食材が増えていく。
- ・生徒達が先生の指示を聞きながら活動を行うことができていた。
調理が好きだから、食品デザイン科を選ぶ生徒が多いが、進路は食品関係なのか？→各科での活動は目的ではなく、手段である。調理を通して働く力をつける。今年度の食品デザイン科卒業生の内、食品関係に就労したのは3名。
- ・ブルドポークサンドイッチがおいしかった。味付けは生徒が考えているのか？→教員が市販のバーベキューソースと焼き肉のたれを用意し、生徒が味見しながら、配合を考えた。
- ・仲間や上司とのコミュニケーションはどのように高めて言っているか
→最初はクラスの中でも同じ中学校の仲間とだけ話をするなどの様子が見られたが作業学習を通して、クラスのメンバーとコミュニケーションが取れるようになってきた。
上司や目上の人に対する態度、作業学習を開始始めるときや、HR活動などでも教えている。
- ・生徒が自分の役割を分かって作業ができていた。どのような意識を持って作業をしているか？
→将来に向けて必要な力を付けていく。言葉遣いや体調が悪いときの連絡、入浴や洗濯をしていない時の謝罪、忘れ物をした時にどのように改善するかなど。
- ・振り返りの付箋が、どんな内容が書いてあるのか、動画では分からなかった。サンドイッチの断面がきれいだったが、生徒が切っているのか？
→教員で切っている。
- ・カフェ運営で、原価や利益に関すること生徒は関わってるのか？
→教員が行い、学習活動としては行っていない。

3 助言者から

- ・令和3年からギガスクール構想を行っている。

ICTの視点取り入れた函館高等支援学校の取り組みを二つ紹介。

- ① アバターを介した接客練習の取り組み。
- ② 三密対策で、買い物かごがなくなったら、入場制限中と言う表示が出る。かごを補充したら、入場できるに変更する。

I C Tは手段であり、目的は生活の質を上げること。

今日の研究授業について

わかる、できる、生きるのねらいは、単元全体を通して達成を目指す。1 単位時間ではねらいを絞り、わかる→いきるが出来た上で、生きるにつながっていく。

授業を改善することで、学校目標が達成される。

令和5年度 保健体育科 学習指導案

日 時 令和5年11月17日（金）2・3校時
場 所 体育館
生 徒 学年1 学年（21名）
指 導 者 教諭 竹 口 輝（MT）
教諭 村 田 賢 吾（ST1）
教諭 大 町 利矢子（ST2）
教諭 加 藤 香 奈（ST3）

1 単元名（題材名） 「武道（空手道）」

2 単元（題材）設定の理由

(1) 生徒観「一人一人の発達をどのように支援するか」

○多くの生徒が自閉症スペクトラム、ADHD、アスペルガー症候群などを併せ持つ集団であるため、個々の特性に合わせた支援をチームティーチングで行う。

○男子15名、女子6名の計21名の学習集団で、男女比に差があるため、異性の目を気にせずに練習や演武ができる雰囲気作りをする。

○チームでの練習や演武発表により、自己の役割を自覚するとともに、他者への気付きや人前での発表を経験する。

(2) 単元（題材）観

ア「何を学ぶか」

- ・ 武道と日本人の関わりを知り、礼節（「道徳性」相手を尊重・相手への感謝・自分を律する）を学ぶことにより、普段の自分の言動を振り返り、日常生活に生かす。
- ・ 学校安全、学校保健、スポーツの観点から、生涯を通じて健康を保持増進する方法を学ぶ。

イ「どのように学ぶか」「主体的…学び」の実現に向けた授業改善の工夫について

(ア)「わかる」の視点による授業改善

- ・ 学習したことを、自分の練習に生かすだけでなく、他者に対しての気付きや配慮ができる場面を設ける。

(イ)「できる」の視点による授業改善

- ・ 今まで経験したことのない技術に触れ、できないと思っている技術を基本動作から型の演武まで段階的に教えることにより、自分にもできるという感覚を養う。

(ウ)「いきる」の視点による授業改善

- ・ ICT 機器（タブレット端末）を使って自分たちの演武を撮影し、自他を評価し合うことによって、自分たちの良い点や改善点を次の活動に生かす。

(3) 評価観

「何が身についたか」

- ・ 空手道の技術だけでなく、武道を体験することで、礼節や相手を尊重する大切さや相手への感謝・自分を律する大切さを学び、日常生活や今後の学校生活にいかす。
- ・ 評価シートを使って、自他の技術面だけではなく、演武発表の構成や所作の工夫箇所などに気付き、称賛し合うことで集団内の和を育む。

3 単元（題材）の目標

3つの柱	校訓	学習指導要領の内容との対応	学習目標	評価規準（評価方法）
知識及び技能	探究協働	高保体1Fア	基礎的な技、作法、形演武の知識及び技能を身に付けることができる。	学習目標を理解して運動に取り組んでいるか。（観察）
思考力、判断力、表現力等	探究協働健全	高保体1Fイ	自分の課題や発表内容を仲間と考えたり、自己選択・自己決定したり練習・表現することができる。	正しい技術や振る舞いを理解して、行動を選択し、身に付けた技術や考えを表現することができたか。（観察）
学びに向かう力、人間性等	探究協働健全	高保体1Fウ	学習の意義を理解し、自分必要な身体面・精神面における要素は何かを考え、仲間と協力して取り組むことができる。	評価表による自己評価と他者評価を参考にし、授業態度や積極性を意識している。（観察・自己評価）

4 指導計画（全13時間扱い）

月 日	時数	学 習 予 定 【わかる】【できる】【いきる】の視点	備 考
10/30(月)	2	・オリエンテーション【わ】 ・正座、黙想、座礼その他作法【で・い】 ・空手道の歴史と今日の流れ【わ・い】 ※日誌の記入【わ・い】：毎授業後に記入する	
11/6(月)	2	・基本稽古（立ち方、突き、受け技）【い】 ・基本形1【わ・で・い】	
11/8(水)	2	・基本稽古（立ち方、突き、受け技）【い】 ・移動稽古（突き、受け技）【で・い】 ・基本形1【わ・で・い】	
11/13(月)	2	・チーム練習【わ・で・い】 ・基本形1【わ・で・い】	
11/15(木)	2	・チーム練習【わ・で・い】 ・基本形1【わ・で・い】	
11/17(金)	2	・演武発表（グループ）【い】 ・自己評価と他者評価【い】 ・仲間と一緒に評価をし、良い点や改善点について意見を出し合う【わ・で・い】	本時 (12/13)
11/20(月)	1	・振り返り（動画視聴） ・自己評価（評価表）【い】	

5 本単元（題材）における生徒の実態及び個別目標

※知・技：知識・技能、 思・判・表：思考・判断・表現、 主体的：主体的に学習に取り組む態度

生徒	単元（題材）に関する実態	単元（題材）の個別目標		備考
普通 1	個人の練習では、一生懸命取り組むことができるが、他者とのコミュニケーションにやや不安がある。	知技	・基本的な突き、受けの技術を身に付けることができる。	
		思判表	・仲間と協力して、より良い演武を作り発表することができる。	
		学人	・自ら積極的に仲間と関わろうとすることができる。	
2	技や型の意味を理解して練習することができる。また、周囲と協力して演武することを楽しむことができる。	知技	・基本的な動きの意味を理解して演武することができる。	
		思判表	・仲間の意見を尊重して、練習や発表をすることができる。	
		学人	・仲間と一緒に、自分たちの演武を評価し改善することができる。	
3	個人の練習は、積極的に取り組み技術面が高い。他者とのコミュニケーションにやや不安がある。	知技	・基本的な技術を形の動きの中に生かすことができる。	
		思判表	・仲間の意見を聞いて、演武の内容を理解し、発表することができる。	
		学人	・積極的にチームの練習に加わり、自分の考えを伝えることができる。	
生産 1	練習して、技術を高めることに喜びを感じることができる。また、周囲と協力して演武することを楽しむことができる。	知技	・基本的な技術を形の動きの中に生かすことができる。	
		思判表	・仲間と協力して、より良い演武を作り発表することができる。	
		学人	・仲間と一緒に、自分たちの演武を評価し改善することができる。	
2	型を覚えることや技術面の理解が難しいことがあるが、周囲と協力し合うことを楽しむことができる。	知技	・基本的な突き、受けの技術を身に付けることができる。	
		思判表	・仲間と協力して、より良い演武を作り発表することができる。	
		学人	・仲間と一緒に、自分たちの演武を評価し改善することができる。	
3	個人的な練習だけでなく、周囲と協力して技の技術を高め合い、一緒に演武することを楽しむことができる。	知技	・基本的な技術を形の動きの中に生かすことができる。	
		思判表	・仲間の意見を尊重して、練習や発表をすることができる。	
		学人	・仲間と一緒に、自分たちの演武を評価し改善することができる。	
4	個人の練習は、積極的に取り組み技術面が高い。他者とのコミュニケーションにやや不安がある。	知技	・基本的な技術を形の動きの中に生かすことができる。	
		思判表	・仲間の意見を尊重して、練習や発表をすることができる。	
		学人	・自ら積極的に仲間と関わろうとすることができる。	
5	型を覚えることや技術面の理解が難しいことがある。また、他者とのコミュニケーションにやや不安がある。	知技	・基本的な突き、受けの技術を身に付けることができる。	
		思判表	・仲間の意見を尊重して、練習や発表をすることができる。	
		学人	・自ら積極的に仲間と関わろうとすることができる。	
6	練習して、技術を高めることに喜びを感じること	知技	・基本的な動きの意味を理解して演武することができる。	

	とができる。他者とのコミュニケーションにやや不安がある。	思判表	・仲間の意見を尊重して、練習や発表をすることができる。	
		学人	・自ら積極的に仲間と関わろうとすることができる。	
7	個人の練習は、積極的に取り組むことができる。また、周囲と協力し合うことを楽しむことができる。	知技	・基本的な動きの意味を理解して演武することができる。	
		思判表	・仲間と協力して、より良い演武を作り発表することができる。	
		学人	・仲間と一緒に、自分たちの演武を評価し改善することができる。	
8	個人の練習は、積極的に取り組み技術面が高い。また、周囲と協力し合うことを楽しみながら練習することができる。	知技	・基本的な技術を形の動きの中に生かすことができる。	
		思判表	・仲間と協力して、より良い演武を作り発表することができる。	
		学人	・仲間と一緒に、自分たちの演武を評価し改善することができる。	
食品 1	型を覚えることや技術面の理解が難しいことがあるが、周囲と協力し合うことを楽しむことができる。	知技	・基本的な突き、受けの技術を身に付けることができる。	
		思判表	・仲間と協力して、より良い演武を作り発表することができる。	
		学人	・仲間と一緒に、自分たちの演武を評価し改善することができる。	
2	個人的な練習だけでなく、周囲と協力して技の技術を高め合い、一緒に演武することを楽しむことができる。	知技	・基本的な動きの意味を理解して演武することができる。	
		思判表	・仲間と協力して、より良い演武を作り発表することができる。	
		学人	・仲間と一緒に、自分たちの演武を評価し改善することができる。	
3	型を覚えることや技術面の理解が難しいことがあるが、周囲と協力し合うことを楽しむことができる。	知技	・基本的な突き、受けの技術を身に付けることができる。	
		思判表	・仲間と協力して、より良い演武を作り発表することができる。	
		学人	・仲間と一緒に、自分たちの演武を評価し改善することができる。	
4	個人の練習は、積極的に取り組み技術面が高い。また、周囲に指導したり、協力し合ったりすることを楽しみながら練習することができる。	知技	・基本的な技術を形の動きの中に生かすことができる。	
		思判表	・仲間と協力して、より良い演武を作り発表することができる。	
		学人	・仲間と一緒に、自分たちの演武を評価し改善することができる。	
5	練習して、技術を高めることに喜びを感じることができる。また、周囲と協力して演武することを楽しむことができる。	知技	・基本的な動きの意味を理解して演武することができる。	
		思判表	・仲間と協力して、より良い演武を作り発表することができる。	
		学人	・仲間と一緒に、自分たちの演武を評価し改善することができる。	
6	授業参加なし。	知技	・基本的な突き、受けの技術を身に付けることができる。	
		思判表	・仲間と協力して、より良い演武を作り発表することができる。	
		学人	・仲間と一緒に、自分たちの演武を評価し改善することができる。	
7	授業参加なし。	知技	・基本的な突き、受けの技術を身に付けることができる。	
		思判表	・仲間と協力して、より良い演武を作り発表することができる。	
		学人	・仲間と一緒に、自分たちの演武を評価し改善することができる。	
8	個人的な練習だけでなく、周囲と協力して技の技術を高め合い、一緒に演武することを楽しむことができる。	知技	・基本的な動きの意味を理解して演武することができる。	
		思判表	・仲間と協力して、より良い演武を作り発表することができる。	
		学人	・仲間と一緒に、自分たちの演武を評価し改善することができる。	
福祉 1	授業参加なし。	知技	・基本的な突き、受けの技術を身に付けることができる。	
		思判表	・仲間と協力して、より良い演武を作り発表することができる。	
		学人	・仲間と一緒に、自分たちの演武を評価し改善することができる。	
2	個人の練習では、一生懸命取り組むことができる。また、周囲と協力して演武することを楽しむことができる。	知技	・基本的な動きの意味を理解して演武することができる。	
		思判表	・仲間と協力して、より良い演武を作り発表することができる。	
		学人	・仲間と一緒に、自分たちの演武を評価し改善することができる。	

6 本時の指導

(1) 全体目標

3つの柱	学習目標	評価規準 (評価方法)
知識及び技能	基礎的な技、作法、形演武の知識及び技能など、身に付けた技術を発表に生かすことができる。	学習目標と到達目標を理解して運動に取り組んでいる。(観察、発表)
思考力、判断力、表現力等	演武内容を仲間と一緒に考え、選択・決定して、表現することができる。	正しい技術について理解、判断、表現している。(観察、発表、自己評価)
学びに向かう力、人間性等	個々の生徒が学習内容と目的を理解し、個人およびグループとして主体的に取り組むことができる。	目標達成に向かって主体的に取り組んでいる。(観察)

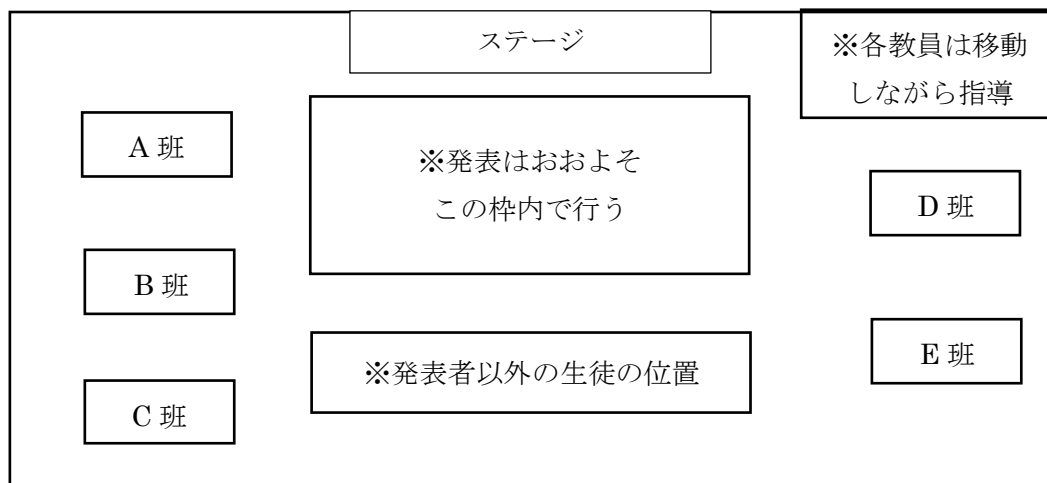
(2) 個別目標

[illegible]

(2) 本時の展開

段階	学習内容	生徒の活動	教師の働きかけ		援助・配慮事項、教材等 特記事項(関連チェック)
		●：活動内容 ※：予想される生徒の言動 【わかる】【できる】【いきる】の視点	○：全体援助、△：個別の援助、■：評価の観点		
			MT	ST	
導入 (10) 分	●導入 1. 集合・整列・挨拶 2. 出欠確認・健康観察 3. 本時の説明	・授業前に体育館5周のランニングと体操を済ませる（体躯委員が前で号令と模範）	△生徒の健康観察（各担当） 各各学科の生徒の様子を観察しながら、必要に応じて声掛けする。（全教員で巡回）	○全体掌握 △健康観察 ■話の理解度 ■時間を意識した行動ができているか。	・各班の撮影係はタブレット端末を用意する。 ★事前配布済の「スキルテスト評価観点」を確認した練習を促す。
	【本時の目標】 【知】基礎的な技、作法、形演武の知識及び技能など、身に付けた技術を発表に生かすことができる。 【思】演武内容を仲間と一緒によく考え、選択・決定して、表現することができる。 【学】個々の生徒が学習内容と目的を理解し、個人およびグループとして主体的に取り組むことができる。				
	(1)全体練習について（礼儀作法） (2)グループ練習について （基本形：自分の班の形） (3)演武発表について （ビデオ撮影）	・前回までの復習と振り返る。 ・本時の目標や活動について理解する。 ・授業1回目に配付した資料の確認 ※別紙参照 ・発表までの流れを再度確認 「わかる」			
展開 (85) 分	●展開【学習活動】 1. 礼儀作法（立礼・座礼・黙想） 2. グループ練習（基本形：自分の班の形） 3. 演武発表 ビデオ撮影（★教員が撮影）	・正しい所作を行う。「できる」 ・タブレットで撮影して、自分たちで確認しながら練習する。「できる」 ・生徒は他の班の発表を鑑賞し、評価表に記入。 「できる」「いきる」	○授業の展開と全体掌握 △○体調に異変のあるものはいないか確認する。 △○発表前の練習についてアドバイスを行う。 ○演武発表の進行	○授業の展開の補助 ■参加する姿勢・態度・積極性 ■個の技術とチームの技術 ■友人に対する思いやり ■安全と環境への配慮 △生徒の自己評価にアドバイス △個別対応が必要な生徒のケア ※声かけや確認で緊張を緩和	・必要に応じた水分補給の指示。 ・演舞発表の前に「評価表」を配布する。 ・全ての班の発表を撮影する（大町T）。
まとめ (15) 分	●まとめ【自己評価】 1. 本時の評価 2. 健康観察 3. 挨拶（終了）	・本時の自己評価（学習ノートの記入）「いきる」 ・発表の評価表をまとめる。「いきる」 ・着替え	△生徒の健康観察（各担当）	○全体掌握と評価 ○健康観察 ■正しい自己評価と他者評価ができているか ※評価観点はMT/ST共通とする。	

(3) 配置図（練習時は各班のエリアで、発表時は図の通り）



(4) 本時の評価

知識及び技能	・ 技の三要諦「力の強弱」「技の緩急」「体の伸縮」を意識して活動することができたか。 ・ 基礎的な技、作法、形演武の知識と技術を他者の前で発表することができたか。
思考力、判断力、表現力等	・ 正しい作法や所作を意識して練習に取り組み、演武を発表することができたか。 ・ 仲間と一緒に考え、練習した演武を練習通りに表現することができたか。
主体的に学習に取り組む態度	・ 個々の生徒が学習の意味を理解し、主体的に取り組むことができたか。 ・ 他者の演武を見て、自分なりに評価をすることができたか。

公開研究会 分科会記録

分科会

公開授業	授業者	助言者
全学科1年 「保健体育」	教諭 竹 口 輝	北海道七飯養護学校教頭 渡 部 一 博 氏

司会(岡山努) 記録(鳴海潤一)

研究協議記録

1 授業者から

- ・学習指導案の概要
- ・とにかく人前で発表するというプロセスを重視している。3年間、空手の授業があるので発展性のあるものにしたい。また、行事などで発表しなければならない場面で生かして、経験を重ねられれば良いと思っている。
- ・怪我の心配はあるが、向かい合ってやる場面では距離を離す、マットを使うなどをし、安全に気を付けている。
- ・授業がない時間や終わった時間に、生徒がふざけて突きなどをやってしまわないように、(空手を)やる場所はここだけと指導している。
- ・本日の授業の振り返り
- ・やりたくない生徒にはタブレットを持ち(同じグループの演武を)撮影させるなどの役割を与えているが、やりたいと仕向けることが課題である。学年によっては、演武を見られたくない生徒がいるので、部屋を変えるなどしている。
- ・空手は畳一畳あればできると言われていたので、卒業後もできるように教えていきたい。
- ・2年前に(新型コロナウイルス感染症の蔓延防止のため)リモートで配信し、連休までに覚えてくよう指導したことがある。

2 研究協議

- 「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の在り方について」
- ・生徒が人前で発表する場面、特に外部の方々がしている場面で演武ができるということは、自信を持っていたのかなあと思う。あるグループの先生は「あなただったらどうしたらよいと思う？」と生徒に考えさせる投げかけ方がとても良かったし、印象的であった。最後に演武の後に生徒に感想を書かせていたが、校訓にもあるように、毎回やらせているのだと思った。他のグループの発表に対して、良かったところなどを交流する場面が見られなかったがどうか？
→月曜日の体育の時間にやる予定である。今日、一番やってほしかったことは、自分で感じたことを書かせることであり、それをメインでやっていた。
 - ・時間が経過してからの交流もあると思うが、今すぐに交流することもあると思ったので質問してみた。
 - ・現在、高等部で体育を担当している。11名中9名が女子生徒で、運動が得意ではないし、人前で発表することが苦手である。今日の授業は女子生徒もしっかり発表していたのが印象的だった。人前で発表することが苦手な生徒の指導について教えていただきたい。
→動画を渡して練習をさせている。練習後の動画を「先生しか見ないからやってみて。」と言って、渡している。空手家の動画を見せている。「できない。」と言う生徒には「できることだけやってみよう。」と言っている。また、話しやすい先生にそばに付いてもらうなどしている。
 - ・私達が想像している以上に大変なこともあると思うので、あえて人前でやらせる経験をさせたいと思っている。
 - ・主体的・対話的で深い学びについて触れていただきながら、ご意見をいただきたい。
 - ・PCを活用しているのか？タブレットシート(?)、ドキュメントなどの活用をしているのか？
→詳しくないため、そこまでできていない。YouTubeで動画を見せることはある。
 - ・生徒達が沢山の視点で話し合っていた。「息が揃っていたよね。」「カメラの角度が良かった。」など。私は、あらかじめ生徒達に項目を立ててからやらせているが、どんな方法で指導しているのか？
→目標が「周りと一緒に協働できるか」であり、一番大切なものとしているが、動画を見て、実はできていなかったり、できていたりしている。想像できるヒントを与えている。技の3要諦(力の強弱、体の伸縮、技の緩急)があるが、どの部分で仲間と協調しあえるか、例えば自分が上手だったら、少し置いて、周りと同じレベルにするなど。

3 助言者から

- ・テーマが「主体的・対話的で深い学びの実現」であり、副題が「わかる・できる・いきる」である。
「学習デザインガイドブック」を作り上げ、大変すばらしいと思う。学習指導要領では、一方的な説明をするのではなく、何を学ぶか、何を身に付けるのが大事で、それが深い学びにつながる。他の体育の種目に比べ、空手は難しいと思っていた。より速くとか、より遠くに飛ばすとかとは違う。
「蹴りが3で、引きが7」というのが、生徒にイメージしやすいのだろうと思う。声の加減を教えるのも難しいと思った。
協働的ということだが、先生の具体的な指示がない中で取り組めるのは、まさに協働的だと思う。グループでやることが工夫されている。深い学びについては、生活にどう生きるかについて、人前での発表が目標につながっている。苦手な生徒もビデオを撮るなど、できることを取り組ませている。点数がまちまちであったので、どういう基準なのかが気になった。声の大きい生徒に声を出させない方法など指導困難な生徒に一工夫することが必要だろう。